

地方公共団体名	苫小牧市
所属部局 担当者名	環境衛生部環境保全課 主事 佐藤 穂乃香
地域の抱える課題	<p><b>【環境・脱炭素に関する課題】</b></p> <p>① 太陽光発電設備（FIT）導入数が道内トップとなっているが、設備の多くが産業用発電設備であり、一般家庭用の認定数は道内5位である。一般家庭向けに太陽光発電設備を広めることが課題となる。（図1）</p> <p>（図1）北海道内FIT(太陽光発電)導入数TOP10（2021年末）</p> <p>② 上記の産業用発電設備の多くがFIT制度を導入しており、2030年代前半頃から20年の買い取り保証期間終了を迎える。終了後は売電価格が大幅に下がるが、卒FIT後の見通しが不透明であり、余剰電力をどのように市内で活用するかが課題となる。</p> <p>③ 多くの市有施設で老朽化が進む中、太陽光発電設備導入には屋根の防水工事やキュービクルの交換等が必要となるが、財源確保が課題となっている。（図2）</p> <p>（図2）市有施設の老朽化&lt;防水加工が必要な屋根&gt;</p> <p><b>【同時解決したい地域の課題】</b></p> <p>④ 寒冷地のため、暖房設備はおもに化石燃料（灯油）を使用しており、他地域と比較して暖房の年間CO<sub>2</sub>排出量の割合が多い。（図3）</p>

	<p style="text-align: center;">地方世帯当たり年間エネルギー種別 CO<sub>2</sub>排出量</p>
<p>地域のありたい未来</p>	<p>国際拠点港湾である苫小牧港を擁し、多様な産業が集積していると同時に、ウトナイ湖に代表される豊かな自然に恵まれた本市だが、高い再エネポテンシャルを最大限活用し、環境と調和したゼロカーボンシティを実現したい。</p>
<p>事業の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 一般家庭等における太陽光発電設備の導入促進。</li> <li>② 卒 FIT 後の余剰電力の活用。</li> <li>③ 市有施設における再生可能エネルギー発電設備導入の普及促進。</li> <li>④ 暖房設備の再生可能エネルギー利用。</li> </ol>
<p>企業に求めたい内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 一般家庭等で普及・促進が期待できる屋根置き型の太陽光発電設備の提案。</li> <li>② 卒 FIT 後の余剰電力を市内で活用できる事業の提案。</li> <li>③ 市有施設における太陽光発電設備導入の低コスト化。または修繕せずに導入できる設備（例えば防水機能を備えた太陽光発電設備や風レンズ風車等の先進的な高効率設備）の提案と実証。</li> <li>④ 化石燃料に頼らない暖房設備の提案。</li> </ol>